



3・11東日本大震災から2年が経ちます。被災地では復興に必要ながれき(災害廃棄物)の処理が急ピッチで進んでいます。昨年12月末現在、被災3県(岩手県、宮城県、福島県)沿岸37市町村では地震・津波の被害で約1,628万トンの災害廃棄物が発生。昨年12月末現在で全体の約44%に当たる715万トン(うち約85%が再利用)が処理されています(環境省発表)。

アスベスト(石綿)は発がん物質です。アスベストを吸うと30年～40年の潜伏期間を経て、中皮腫や肺がんなどの健康被害を発生させるおそれがあります。がれきや建物にはアスベスト(石綿)が含まれています。解体・撤去・運搬・処理の過程で飛散したアスベスト粉じんを労働者やボランティア、住民が気づかぬうちに吸い込む危険性があります。

昨年8月、阪神淡路大震災時にがれきの処理作業に2か月間従事した労働者が中皮腫を発症し、労災認定されました。東日本大震災の被災地でも、アスベストによる環境汚染や健康被害を予防するための取り組みが求められています。

アスベスト被害のない被災地の復興を実現するために、ともに考え、行動していきたいと思えます。ぜひご参加ください。

**期日** 3月20日(水・祝日)  
開場 13:00 開始 13:30 終了 16:30

**会場** 仙台市市民活動サポートセンター  
セミナーホール(6階)  
(地下鉄広瀬通駅 西5番出口すぐ)  
仙台市青葉区一番町四丁目1-3 TEL 022-212-3010

**参加費** 無料

### <第1部 シンポジウム>

- 講演「被災地のがれき処理状況の現状と課題」  
吉岡 敏明氏  
(東北大学大学院環境科学研究科教授)
- 報告「被災地のアスベスト調査報告と対策の提言」  
外山 尚紀  
(東京労働安全衛生センター、労働衛生コンサルタント)
- 報告「被災地の健康影響調査報告」  
広瀬 俊雄氏  
(仙台錦町診療所・産業医学センター所長  
日本労働安全衛生コンサルタント会宮城支部長)
- 報告「阪神淡路大震災の復旧作業における労働実態」  
南 慎二郎氏  
(立命館大学グローバルイノベーション研究機構研究員)
- パネルディスカッション  
コーディネーター 中地 重晴氏  
(熊本学園大学教授)

6. アピール  
中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会

### <第2部 体験ワークショップ>

- チェックしよう! がれきの中のアスベストの見分け方
- 試してみよう! アスベストから身を守る防じんマスクの着け方

**<会場展示>** 午前10時～午後4時  
地震とアスベストから身を守るための学習パネルの展示  
アスベストから身を守る防じんマスクの展示  
アスベストが含まれるがれき、建材の展示

### <アスベスト何でも電話相談>

午前10時～午後4時  
電話番号 090-1408-4136  
会場にも相談コーナーを設けています。  
お気軽にご相談下さい。

### <主催>

特定非営利活動法人  
**東京労働安全衛生センター**  
東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル 5F  
TEL 03-3683-9765 FAX 03-3683-9766  
<http://www.toshc.org/> center@toshc.org

### <協力>

生活協同組合 あいコープみやぎ  
中皮腫・じん肺・アスベストセンター  
地震・石綿・マスク支援プロジェクト  
宮城アスベストセンター  
宮城石綿患者・家族の会

※この催しは独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。

# アスベスト被害のない被災地の復興を

## 東日本大震災から2年、これからのアスベスト対策を考える集い in 仙台